

堺市の小中一貫教育 縦につながる教育の「導入期」から「充実期」への転換に向けて

これまでに本市で取り組んできた「縦につながる教育」のより一層の充実に向け、小学校、中学校の全教職員で、「小中一貫グランドデザイン（全体構想）」を基にした小中一貫教育を実施します。

子どもたちは、義務教育の9年間をかけて様々な経験を積み重ねて成長することから、小学校と中学校の学びと育ちを9年間という連続性のもとでとらえ、小・中学校でめざす子ども像を共有し、その実現に向けて計画的、系統的な教育課程を編成するとともに、子どもたちの個性や能力を伸ばし、未来を切り拓くための資質・能力を育成します。

<p>導入期 推進リーダーの取組による小中一貫教育推進の土台づくり</p> <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が定着しないまま進級・進学 自尊感情と規範意識の低下 など <p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 合同研修、相互授業参観の定着と小中の相互理解 授業改善による学力の向上 自尊感情や規範意識の向上 不登校児童生徒の割合の減少 	<p>充実期 小中一貫グランドデザインに基づいた小中一貫教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育推進リーダーが作り上げた小中一貫教育の土台と文化を基に、全教職員でより一層の充実を図る。 <p>※小中一貫グランドデザイン（全体構想）…9年間をとおして、子どもたちにどのような資質・能力を育成するかを中学校区単位で示した。グランドデザインを活用することで、全ての教職員が中学校卒業時の姿を意識した指導をする。</p>
---	---

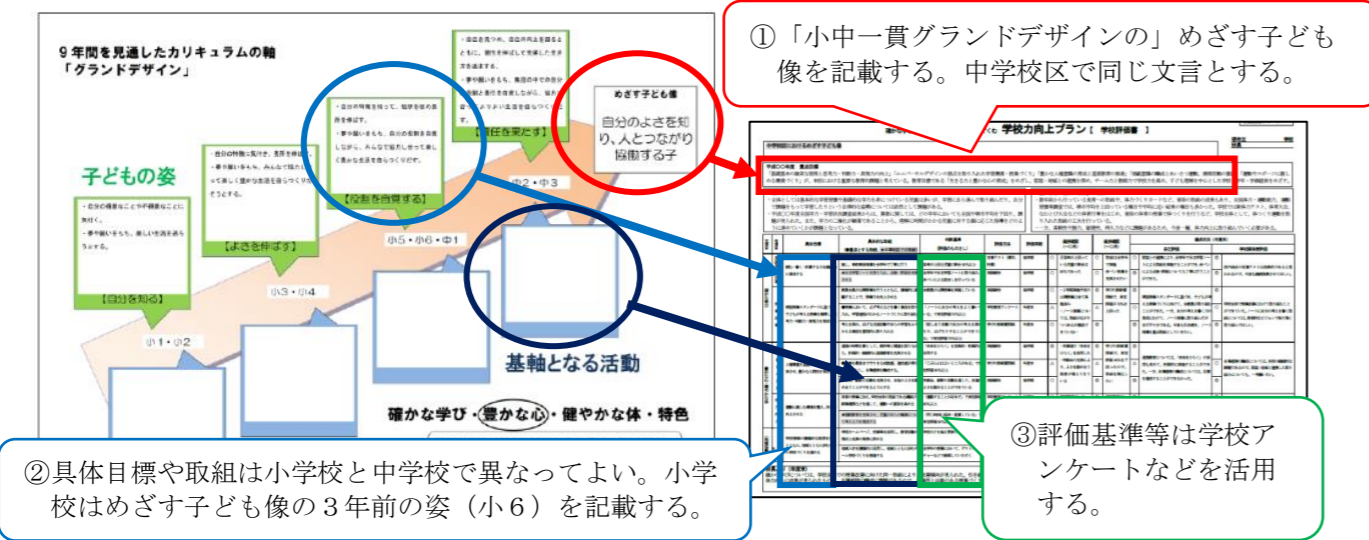
「小中一貫グランドデザイン」に基づく小中一貫教育の充実に向けた3つの取組

取組1 目標の設定と検証改善サイクルの構築

1. 中学校区で、総合的な学力向上のための共通の教育目標を設定する。その目標の達成に向け小・中学校の全教職員が「小中一貫グランドデザイン」を共有し、めざす子ども像の実現に向けた取組を推進する。

2. 「小中一貫グランドデザイン」を「学校力向上プラン」に位置づけ、縦横につながる教育を実施し、その検証と改善を行う。

○小中一貫グランドデザインのめざす子ども像を踏まえ、「具体目標」を学校力向上プランに位置づける。具体目標をもとに、「評価項目」「判断基準」を設定し、「進捗確認」「自己評価」「関係者評価」等を通して、検証改善サイクルを確立する。年度途中、年度末にも、小・中学校の管理職が各学校の取組や達成状況を共有し、教職員が着実に改善や推進を積み重ねることができる体制を構築する。



学校指標 学校力向上プランに小中一貫グランドデザインの内容を位置づけ、取組を評価改善する。
※小中一貫教育は教職員の意識変革が行動となって表れ、じわじわと効果が出てくることが多い。前年度との比較のみならず、取組初期の段階からの変化を積み上げ検証を行うことで評価者や保護者など学校関係者の理解が得られやすい。

取組2 小中一貫教育を推進する組織づくり

「小中一貫教育担当」を校務分掌に位置づけ、継続的・安定的に小中一貫教育を推進できる体制を構築する。

管理職の役割 小中一貫教育推進のマネジメントを行う。小・中学校の管理職で子どもたちの課題やめざす子ども像を共有し、取組の方向性を明確にする。そのうえで、小中一貫教育推進の中心的な役割を担う担当を校務分掌に位置づけ、小中一貫教育担当者が生徒指導主事や教務主任、研修主任等とともに、中学校区で小中一貫教育を推進する体制を構築する。

小中一貫教育担当者の役割 めざす子ども像の実現に向け、推進リーダーが中心となって進めた小中一貫教育の取組を継続・充実させる。小中一貫した取組の推進には、小学校同士の連携も必要である。担当者は、管理職が示した取組の方向性を踏まえ、全教職員が、めざす子ども像の実現に向け何ができるのかを考え、意識して取り組むことができるように、具体的な取組の企画、運営を行う。

取組3 中学校区でめざす子ども像の育成に向け取り組む。

1. 9年間を見通し、学力の向上と生徒指導等の充実を図る。

○各学校の目標や中学校区のめざす子ども像の実現に向け、「堺版授業スタンダード」等を基にした授業改善を推進し、中学校区で連続性と一貫性のある家庭学習習慣や学習規律の確立を図る。合同研修の機会などを利用し、各教科の年間指導計画の共有することで、中学校区として学習内容を整理し、系統性のある指導を行う。なお、「小中一貫グランドデザイン」の「基軸となる活動」は、小中一貫教育の柱となる活動であり、それぞれの発達段階での取組を確実に推進する。

2. 中学校区の教職員が連携し、異校種、異学年、他教科での取組や「子どもの姿」の理解を深める。

○中学校区で、学期に1回以上、研修会や会議、相互授業参観等を開催し、学習指導や生徒指導等について情報を共有する機会を計画的に設けるとともに、「小中一貫グランドデザイン」を活用し、それぞれの学校の子どもの理解を深め、めざす子ども像の実現に向けた取組を推進する。

○小中一貫担当者等の連携例

1学期	2学期	3学期
小中一貫担当者 ・GDの共有 ・取組やスケジュールの確認	小中一貫担当者 ・進捗状況、今後の取組確認 ・GDの検証改善調整	小中一貫担当者 ・学力調査等を活用した検証 ・GD、取組の見直し
全教職員 ・GDの理解と取組推進、授業改善に係る取組、各中学校区の実態に応じた取組の ・夏季合同研修	全教職員 ・相互授業参観	全教職員 ・取組の振り返りと今後の方向性等確認 基軸となる活動の実施 ・1学期の取組に加え、合同行事の開催
基軸となる活動の実施 ・家庭学習、キャリア教育 児童会、生徒会活動	基軸となる活動の実施 ・1学期の取組に加え、合同行事の開催	基軸となる活動の実施 ・同左

相互授業参観の際に、小中一貫グランドデザインの「めざす子どもの姿」をもとに授業を参観し合うことで、校種等が異なっても、参観している子どもの姿や取組内容を共通の視点で見取る。

学校指標 管理職や小中一貫教育担当教員を中心に、中学校区で教育課程の接続を図るための活動や情報交換等を学期に1回以上、講師を招聘するなどした全体合同研修を年に1回以上実施する。
※令和3年度予算 中学校区に講師謝礼金2万3千円、消耗品費4万円 合計6万3千円